

有限会社 米内沢中央印刷

単なる受注産業から脱却 印刷会社が目指す第二創業期

地域経済の疲弊は経営努力だけでは
カバーし切れない。
自社商品開発で思い切った業態転換へ。

地域密着型企业ならではの低迷

旧森吉町米内沢地区に所在する「米内沢中央印刷」は、創業64年の地域密着型の印刷所だ。かつては役場や学校などからの発注が潤沢にあり、また、文芸の盛んな土地柄から自費出版や同人誌の注文も少なくなかった。最盛期には森吉町だけで3社の印刷所があり、それぞれに仕事が行き渡っていた。

しかし、森吉町は2005年に鷹巣町、合川町、阿仁町と合併して北秋田市となり、学校の統廃合も進んで、地域の印刷の仕事は激減した。少子高齢化、人口減少も著しい。現在は地域の印刷会社は当社1社のみだが、これまでの受注産業に甘んじた経営では厳しさが増す一方である。

受注型産業からの脱出を図って

同社生え抜きの社員であった三浦武さんが二代目社長として経営を引き継いで今年で9年になる。会社の存続を模索する中で、奥様の孝子さんから、オリジナル商品の制作・販売を提案された。具体的には、地域の自然や行事などで彩った一筆箋の商品化だ。長年印刷と製本を手がけてきた同社にとって一筆箋の制作自体は比較的容易なこと。三浦社長は自ら写真も撮るので、全工程に渡って内製できるのも強みであった。



しかし、特定の顧客ばかりを相手に営業してきた同社には、販路開拓のノウハウがなかった。そこで当センターの「秋田県よろず支援拠点」のアドバイスを受け、「販売促進・売上拡大セミナー」に参加して、新事業である自社製品の販売手法を学んだ。

一筆箋は現在、「ほっこりふるさと秋田」のシリーズ名で、県内の各駅や秋田・大館能代の両空港、道の駅、その他の観光施設など約30ヶ所で販売されている。

専門家の指導を受けて第二創業期へ

県北中心の販売網から秋田市まで販路を拡大した昨年、改めて「ビジネス道場」に参加して「マーケティングのイロハ」も学んだ。

「印刷業としての実績はあるものの、オリジナル商品の販売は未体験の領域。プロの先生に一からご指導いただくのが早道だと思っています」

今後も専門家の助言を受けつつ、景況や地域事情に左右されない企業として第二創業期を迎える意識で、「一筆箋に限らずノベルティや一般文具市場も視野に入れた多面的展開、対消費者のみならずB to B、特注品需要の掘り起こしなどにも積極的に取り組んでいきたい」と、三浦社長は語る。B



受注型の業態から自社商品開発型の業態へ、業態転換の模索は続く。

一筆箋は積極的にバリエーション化も進めている。

社長夫人の女性ならではの柔軟な発想が戦力になっている。

有限会社 米内沢中央印刷

秋田県北秋田市米内沢字寺の下33-1

TEL.0186-72-3103

FAX.0186-72-5213